

カラス被害を受けにくいスイカ品種について

農業技術研究センター（鳥獣害防除担当）

キーワード：カラス、スイカ、鳥獣害、品種比較

1 技術の特徴

県内では中山間地域を中心に農作物の鳥獣被害の発生が問題になっている。そこで少量多品目栽培が主となる中山間地域において直売出荷に向けたカラス食害を受けにくいスイカ品種を検討した。今回供試した黒皮品種のアクシア（ナント社）は通常の縞皮品種と比べて、濃緑色で視認性が低い特徴を持っている。アクシアはカラス食害を受けにくく、割れが少ないことから、鳥害を受けやすい地域でも栽培が容易であることが確認できた。

2 技術内容

（1）品種比較調査

カラスの生息が多数確認され、加害圧の高いほ場（秩父試験地）においてカラス食害を受けにくいスイカ品種の特徴について検討した。黒皮品種のアクシアと縞皮品種の飛紅船ラルク（ナント社。以下、ラルクという）を同一ほ場で同時に栽培した。ラルクは苗立や初期生育、着果が早く、栽培中盤以降も生育が旺盛であった（表1）。ラルクはカラスによる被害が継続的に発生したため、開花・着果が続き最終的に着果数が多くなった（表2）。アクシアはラルクと比較して被害果率が低く収穫果数も多かった（表3）。また、アクシアは割れの発生が皆無であった。アクシアは濃緑色の果皮をしているため縞皮品種よりもカラスの視認性や嗜好性が低いと考えられる（写真）。

（2）品質・食味調査

アクシアの糖度や収量・食味値等の品質は縞皮品種と比較して遜色なかった（表4、5）。

3 具体的データ

表1 最大つる長 (cm)

品種	定植後25日	定植後50日
黒皮品種	169.6	382.5
縞皮品種	180.4	476.3

表2 1株あたり着果数及び収穫数 (個)

品種	着果数	収穫果数
黒皮品種	6.4	4.4
縞皮品種	15.4	1.8

※縞皮品種は常時カラスによる食害が発生したため着果数が多くなっている

表3 収穫果率及び被害果率 (%)

品種	収穫果率	被害果率	割れ発生	その他
黒皮品種	68.6	33.3	0.0	2.0
縞皮品種	11.4	81.3	10.6	0.8



写真 スイカ供試品種

(A) 黒皮品種 (B) 縞皮品種

表4 品質調査

品種	重さ(kg)	長径(cm)	短径(cm)	糖度 (中央)	糖度 (中間)
黒皮品種	3.0	26.6	14.2	10.6	9.6
縞皮品種	2.3	20.3	13.0	10.5	9.7

※糖度：ブリックス値

糖度（中央）：赤道部中央、糖度（中間）：赤道部中央と赤道部果皮の中間点

表5 食味調査（参加者40名）

調査項目	品種	
	黒皮品種	縞皮品種
水分	3.53	4.15
肉質 硬さ	3.10	3.13
シャリ感	3.28	3.23
食味	3.46	3.78
購買意欲	3.08	3.35

肉質：水分（多5～少1）、硬さ（硬5～軟1）、シャリ感（有5～無1）

食味：（良5～不良1）

購買意欲：この品種を直売所等で購入したいと思うか：（強く思う5～思わない1）

4 適用地域

カラスによる被害が想定される地域。

5 普及指導上の留意点

- (1) 外観からの熟度は判別できないので着果標識の装着は必須である。
- (2) 着果直後はアクシアも縞皮が現れるため被害が発生することがある。つる等で着果直後の幼果を覆う等の対応をする。また、確実に被害を減らすためにはテグスの展張が必要である。
- (3) アライグマやハクビシンなどの中型動物が出没する場合は電気柵の設置が必要である。

6 試験課題名（試験期間）、担当

野生動物の農作物被害防止総合対策の推進（2022）、鳥獣害防除担当